

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390200487		
法人名	医療法人 以心会		
事業所名	グループホーム たつのおとしご 1F		
所在地	岡山県倉敷市福田町古新田146-4		
自己評価作成日	平成29年3月3日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご自宅に代わって生活の基盤となるグループホームで安心して生活していただけるよう適切な介護を行うとともに、身体的なりハビリや、脳リハ等を行うことによりADLの維持を心掛けています。また、隣接する医院や主治医と連絡を密にすることで安心して生活していただけます。地域の行事への参加やボランティアに来ていただくことにより地域の皆様との交流を行っています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=3390200487-00&PrefCd=33&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社東京リーガルマインド 岡山支社		
所在地	岡山県岡山市北区本町10-22 本町ビル3階		
訪問調査日	平成29年3月30日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人全体として、地域との交流を図っており、デイ케어センターでの演芸会や保育園児との交流会等で地域の人達と触れ合う機会が多い。日常的な交流は、利用者の生活の活性化に結び付いている。また、医院の元患者や近所の人達のボランティア活動や、民生委員の外出支援も続けられており、地域の人達の理解と支援の深まりが感じられる。職員間の仲が良く、連携を図りながら利用者一人ひとりのその人らしい暮らしを保つ支援に取り組んでいる。職員の中に管理栄養士がいて、生きる喜びに繋がるようにと、心を込めて献立し、食事を作っている。様々なバリエーションを工夫し、飽きないように目先を変えて提供している。体調の変化に応じて細かく対応することもでき、利用者・家族の満足度も高い。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「心を持って地域の医療・福祉に貢献する」利用者様と地域の住民の方と交流の中で地域行事参加、清掃活動など行っている。	新人研修で取り上げ、職員間での意識の共有を図っている。同時に運営方針や、グループホーム独自の目標についても確認し、理解を促している。職員会議でも話し合い、日々のケアに反映させている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	畑を近隣の方に助けていただいで管理している。 外出行事などには民生委員さんがボランティアに来て下さり出かけている。	地域の医療を担ってきた医院が母体で、法人全体として地域との交流を図っている。良好な関係が築かれ、地域の人達が外回りの掃除や、畑や花壇の手入れをしてくれ、環境整備に協力してくれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事へ参加することによって認知症への間違った理解が少なくなればとは思っているが、地域へ向けて、何か特別には行っていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回開催月までの行事等の報告を行い、ご意見をいただいている。いただいたご意見は取り入れるようにはしている。参加頂けないご家族様には意見箱を設置しご意見等を頂くようにしている。	高齢者支援センター職員、老人会会長、民生委員、地区会長、他グループホーム管理者、家族等の参加している。ボランティアの紹介や、花見の場所等の提案があり、サービス向上に向けた話し合いがなされている。	家族と職員との双方で、利用者のより良い生活を支えていく為に、運営推進会議を活用し話し合っ欲しい。家族代表にとらわれず、より多くの家族の参加を促す取り組みに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	業務の中でわからないことなどは電話等で質問を行っている。	高齢者支援センター職員が運営推進会議に出席してくれ、事業所の実情を理解し、有効な情報を提供してくれている。市担当者とは、電話や書類提出時等に相談し助言をもらっている。情報の共有に努め、連携が図れるように取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者様の身体への直接的な拘束は行っていないが、玄関の施錠に関してはご家族様から要望もあり、危険防止の観点から一部施錠している。ただし、利用者様が外に出られる意思表示を示されれば、一緒に外へ出ている。	身体的な拘束だけでなく、言葉や態度による抑圧にも注意を促している。「ちょっと待って」等の制止の言葉はできるだけ使わないようにしている。身体拘束や接遇の研修を充実させ、職員同士でも気をつけている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員研修を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員研修を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約以前に電話や面会を何度か行い、説明を行っている。 また、契約時も料金表等を使いなるべく分かり易く説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	緊急性のあるものは随時対応し、そうでないものは毎月のカンファレンスで話し合っている。結果について公表してかまわない内容であれば、新聞に掲載するようにしている。	ケアプランの説明時や、近況を伝える電話等で積極的に働きかけ、意見や要望を聞き取る努力をしている。自発的には少ないが、問いかけると答えてくれるので、サービスに反映させるように努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	特別に意見を聴く機会としては設けてはいないが、随時代表者や管理者へは意見や提案を伝えられ、運営に反映させている。	何でも話し合える雰囲気があり、管理者には会議で言えないことも、個々に伝えることができる。職員の気付きから、効率の良い業務分担の提案が為され、検討されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	務めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護部門全体での勉強会を行うとともに、外部の研修会へも参加を勧めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	水島地区地域交流会や、ケアマネ交流会などへ機会があれば参加し、交流を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約以前にもご本人と面会を行い、ご本人の思いなどをお聞きする場を設けている。サービス開始時には不安が少しでも少なく、楽しく過ごしていただけるよう心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	金銭的なこと、医療への対応、今後のことなど、いつでもご相談いただけるような関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	医療への対応など、個別に必要なサービスが受けられるように支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	可能な限りできることは行っていただき、出来ない所は介助している。 ケアプランに位置付けて、家事をサポートしていただいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様のトラブルや苦情などがあった場合、医療が必要な場合など、ご家族様に連絡しご家族様にも対応をお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	可能な限り友人やご家族などに手紙を出したり、電話で話をしたり、訪問していただけるよう支援を行っている。 最近では友人が訪問されたり、ご家族とのお食事に出られる事も増えてきている。	家族と一緒に外出や外泊を楽しむ利用者もいる。隣接医院の受診のついでに寄ってくれる友人には居室でゆっくり過ごしてもらい、次の来訪をお願いしている。一人ひとりの馴染みの関係が継続できるように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の人間関係に配慮し、食事の際の席などに気を付けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	こちらからの積極的なアプローチは行っていない。必要に応じ行いが、実際には相談などの連絡はない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の意向を把握し可能な限りサービスに反映できるように心がけている。把握が行えない場合も極力本人本位になるよう心掛けている。	気持ちの根底にある「家に帰りたい」という思いを汲み取り、一緒に外に出て散歩をしている。日々の行動や表情から、言葉にしづらい内面的な思いや意向を把握するように努め、職員間で意見を出し合い、検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	前任の担当ケアマネジャーやご家族様から情報を得るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子観察等をしっかり行い職員間で情報を共有するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現状把握を行いカンファレンスにて検討している。必要があればご家族にも連絡し、協力を求めている。	事前に職員全員がカンファレンス記録を提出し、まとめられた意見を基に、カンファレンス会議を毎月実施している。多くの視点が入る事で、現状に即した計画作成ができています。毎日の丁寧な記録もモニタリングに活かされています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録をより細かく記録し、情報の収集に努め、サービスにつなげるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	「天気が良いからどこか行きたい」などのご希望に可能な限り対応している。家族の参加については、特別なお知らせは行っていないが、面会に来られたご家族様にはお知らせしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内の夏祭り参加や、地域のボランティアの受け入れを行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時にご家族様と相談し、主治医を決めその主治医を受診できるように支援している。	母体医院、協力医療機関の受診は職員が同行している。他の専門医の受診は家族に付き添いをお願いしている。週2回の看護師の訪問や、母体医院の医師の訪問は、利用者や家族にとっての安心に繋がっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に2回看護師が来た時に情報を伝え急変時はもちろん定期的を受診が行えるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	退院時もしくはそれ以前に相談員や、担当看護師から情報を得るようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合、家人や主治医と相談しどう援助していくかを検討している。	入居時に説明し、理解を得ている。重度化した場合は医師の方から家族に状況説明や最大限の対応について話しをしている。24時間の医療連携体制が整っており、緊急時の対応が心強い。今年度はぎりぎりまで事業所で過ごし、数日後に搬送先の病院で亡くなった例もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会を開くとともに、緊急時の対応フローチャートを掲示して適切な処置が行えるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難誘導訓練を実施している。運営推進会議にて地域への協力をお願いしている。本年度は近隣の方や民生委員にも参加していただき、指定避難所までの避難訓練を行う。	年2回、そのうち1回は夜間想定で火災避難訓練を実施している。さらに南海トラフの地震想定での避難訓練も行った。地区会長等地域の人に参加してくれ、詳しい地域情報を得ながら、避難経路を確認した。地域の消防団員にも協力をお願いしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様個々の状態に合わせた声掛けと、危険のない範囲でプライバシーの保護に努めている。排便確認の困難な方は、腹部の張り具合や排泄後のトイレの便臭などで判断する事もある。	女性の利用者が多く、排泄や入浴には特に配慮している。男性職員の介助を避けたり、さりげないケアを行うようにしている。個人情報保護にも気を配り、居室に名札は掛けていない。職員間の伝達もスタッフルームで小声で行うようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	可能な限り、選択肢をいくつか用意しご利用者様が選択し行えるように心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活のリズムに支障のない範囲で、食事と診察と入浴以外は時間にゆとりを持ってその時々で対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	夜、居室でスキンケアを行ったり、朝、お化粧をしたりなどの手伝いが必要であれば行う。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	胡麻をすったり、きぬさやの筋とりのような食事の下ごしらえの手伝いなど家事サポートの一環として行っている。片付けは食器を重ねたりテーブルを拭いていただいている。	季節の食材を使った手作りの家庭料理が、利用者の楽しみの一つになっている。食材の色や形を活かした盛り付けで、見た目からも食欲がわいてくる。松花堂弁当にしたり、竹の皮に包んだおにぎりにしたり、工夫を凝らし食の楽しみを引き出している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考えたメニューを管理栄養士が管理している。 個々の状態を把握し、メニューや食形態の変更等行っている。 水分摂取については、好みに合わせた物の提供や、入浴後やリハビリ後にはスポーツ飲料を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ管理表を付け時間を記録することにより、排尿・排便のリズムをつかみ極力失敗することの無いよう声掛け・誘導を行っている。	気持ち良くトイレで排泄できるように早めの誘導を心掛け、紙パンツ・パット使用から布パンツ使用に改善された利用者もいる。一人ひとりの身体機能に応じて、自立に向けた支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分の摂取量の管理や、腹部のマッサージを行っている。必要があれば主治医とも相談し取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	契約時のご家族様からの要望を基に目安となる入浴回数を決めて行っている。その際ご本人から入浴の要望があれば対応している。	週に3回、本人のペースでゆっくりと入浴している。希望があれば毎日の入浴も可能で、ゆず湯やしょうぶ湯等、季節の風呂も楽しんでいる。職員と1対1で過ごす寛いだ入浴時間は、本音の気持ちを聞き取る貴重な時間ともなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調に配慮し、主治医の指導も取り入れながら休息がとれるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	完全とは言えないが、薬袋に記入されているので何かあれば確認するようにしている。服薬で不安を感じている方には何の薬かの説明を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	植木の水やりやカーテンを閉める係などを家事サポートの一環として行っていた。また、嗜好品を提供することで、落ち着いて過ごされる方もおられる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	可能な限り対応している。	桜、藤の花、紅葉等を見に出かけたり、ドライブに出かけたりしている。デイケアセンターでの催しに参加したり、リハビリに通ったり、戸外に出る機会が多い。敷地内の畑や花壇に立ち寄りながら散歩を楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は原則ご家族様にお願いしている。 利用者様によってはいくらかをお預かりし、買い物の際などにそこからお支払している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様に電話をかけたい利用者様は、ご家族様に確認をし、電話をかけても支障がない場合のみの対応にしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同フロアへ季節を感じられる飾りつけを行っている。 また、近隣の方が持って来てくれた季節の花を飾ったりしている。	全面が掃き出し窓で、外の景色が楽しめ、明るく開放的な共用空間になっている。花壇で育てられた花が生けてあり、会話の糸口ともなり心が和む。テレビの前には、ゆったりと座れるソファが置いてあり、思い思いの場所でくつろいで過ごすことができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様がそれぞれお好きな場所で過ごしていただき、事故やトラブルが起こらないように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際の持ち物に関してはご家庭で使われていたものを持ってきていただくようお願いしている。	ベッド、クローゼット、洗面台が備え付けられている。夫との思い出の家具を持ち込んでいる人もいる。家族が花を生け、飾ってくれている部屋もある。家族の協力を得ながら、職員間でも検討し、その人らしく暮らせる居室作りに取り組んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	可能な限りできることは行っていただくように見守りを行っている。 その際に事故の起こらないように配慮している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390200487		
法人名	医療法人 以心会		
事業所名	グループホーム たつのおとしご 2F		
所在地	岡山県倉敷市福田町古新田146-4		
自己評価作成日	平成29年3月3日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご自宅に代わって生活の基盤となるグループホームで安心して生活していただけるよう適切な介護を行うとともに、身体的なりハビリや、脳リハ等を行うことによりADLの維持を心掛けています。また、隣接する医院や主治医と連絡を密にすることで安心して生活していただけます。地域の行事への参加やボランティアに来ていただくことにより地域の皆様との交流を行っています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=3390200487-00&PrefCd=33&VersionCd=022
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社東京リーガルマインド 岡山支社		
所在地	岡山県岡山市北区本町10-22 本町ビル3階		
訪問調査日	平成29年3月30日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「心を持って地域の医療・福祉に貢献する」利用者様と地域の住民の方と交流の中で地域行事参加、清掃活動など行っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	畑を近隣の方に助けていただいて管理している。 外出行事などには民生委員さんがボランティアに来て下さり出かけている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事へ参加することによって認知症への間違った理解が少なくなればとは思っているが、地域へ向けて、何か特別には行っていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回開催月までの行事等の報告を行い、ご意見をいただいている。いただいたご意見は取り入れるようにはしている。参加頂けないご家族様には意見箱を設置しご意見等を頂くようにしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	業務の中でわからないことなどは電話等で質問を行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者様の身体への直接的な拘束は行っていないが、玄関の施錠に関してはご家族様から要望もあり、危険防止の観点から一部施錠している。ただし、利用者様が外に出られる意思表示を示されれば、一緒に外へ出ている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員研修を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員研修を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約以前に電話や面会を何度か行い、説明を行っている。 また、契約時も料金表等を使いなるべく分かり易く説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	緊急性のあるものは随時対応し、そうでないものは毎月のカンファレンスで話し合っている。結果について公表してかまわない無いようであれば、新聞に掲載するようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	特別に意見を聴く機会としては設けてはいないが、随時代表者や管理者へは意見や提案を伝えられ、運営に反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	務めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護部門全体での勉強会を行うとともに、外部の研修会へも参加を勧めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	水島地区地域交流会や、ケアマネ交流会などへ機会があれば参加し、交流を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約以前にもご本人と面会を行い、ご本人の思いなどをお聞きする場を設けている。サービス開始時には不安が少しでも少なく、楽しく過ごしていただけるよう心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	金銭的なこと、医療への対応、今後のことなど、いつでもご相談いただけるような関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	医療への対応など、個別に必要なサービスが受けられるように支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	可能な限りできることは行っていただき、出来ない所は介助している。 ケアプランに位置付けて、家事をサポートしていただいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様のトラブルや苦情などがあった場合、医療が必要な場合など、ご家族様に連絡しご家族様にも対応をお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	可能な限り友人やご家族などに手紙を出したり、電話で話をしたり、訪問していただけるよう支援を行っている。 最近では友人が訪問されたり、ご家族とのお食事に出られる事も増えてきている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の人間関係に配慮し、食事の際の席などに気を付けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	こちらからの積極的なアプローチは行っていない。必要に応じ行いが、実際には相談などの連絡はない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の意向を把握し可能な限りサービスに反映できるように心がけている。把握が行えない場合も極力本人本位になるよう心掛けている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	前任の担当ケアマネジャーやご家族様から情報を得るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子観察等をしっかり行い職員間で情報を共有するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現状把握を行いカンファレンスにて検討している。 必要があればご家族にも連絡し、協力を求めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録をより細かく記録し、情報の収集に努め、サービスにつなげるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	「天気が良いからどこか行きたい」などのご希望に可能な限り対応している。家族の参加については、特別なお知らせは行っていないが、面会に来られたご家族様にはお知らせしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内の夏祭り参加や、地域のボランティアの受け入れを行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時にご家族様と相談し、主治医を決めその主治医を受診できるように支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に2回看護師が来た時に情報を伝え急変時はもちろん定期的を受診が行えるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	退院時もしくはそれ以前に相談員や、担当看護師から情報を得るようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合、家人や主治医と相談し同援助していくかを検討している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会を開くとともに、緊急時の対応フローチャートを掲示して適切な処置が行えるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難誘導訓練を実施している。 運営推進会議にて地域への協力をお願いしている。本年度は近隣の方や民生委員にも参加していただき、指定避難所までの避難訓練を行う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様個々の状態に合わせた声掛けと、危険のない範囲でプライバシーの保護に努めている。排便確認の困難な方は、腹部の張り具合や排泄後のトイレの便臭などで判断する事もある。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	可能な限り、選択肢をいくつか用意しご利用者様が選択し行えるように心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活のリズムに支障のない範囲で、食事と診察と入浴以外は時間にゆとりを持ってその時々で対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	夜、居室でスキンケアを行ったり、朝、お化粧をしたりなどの手伝いが必要であれば行う。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	胡麻をすったり、きぬさやの筋とりのような食事の下ごしらえの手伝いなど家事サポートのい遺憾として行っている。片付けは食器を重ねたりテーブルを拭いていただいている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考えたメニューを管理栄養士が管理している。 個々の状態を把握し、メニューや食形態の変更等行っている。 水分摂取については、好みに合わせた物の提供や、入浴後やリハビリ後にはスポーツ飲料を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ管理表を付け時間を記録することにより、排尿・排便のリズムをつかみ極力失敗することの無いよう声掛け・誘導を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分の摂取量の管理や、腹部のマッサージを行っている。必要があれば主治医とも相談し取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	契約時のご家族様からの要望を基に目安となる入浴回数を決めて行っている。その際ご本人から入浴の要望があれば対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調に配慮し、主治医の指導も取り入れながら休息がとれるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	完全とは言えないが、薬袋に記入されているので何かあれば確認するようにしている。服薬で不安を感じている方には何の薬かの説明を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	植木の水やりやカーテンを閉める係などを家事サポートの一環として行っていただく。また、嗜好品を提供することで、落ち着いて過ごされる方もおられる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	可能な限り対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は原則ご家族様にお願いしている。 利用者様によってはいくらかをお預かりし、買い物の際などにそこからお支払している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様に電話をかけたい利用者様は、ご家族様に確認をし、電話をかけても支障がない場合のみの対応にしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同フロアへ季節を感じられる飾りつけを行っている。 また、近隣の方が持って来てくれた季節の花を飾ったりしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様がそれぞれお好きな場所で過ごしていただき、事故やトラブルが起こらないように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際の持ち物に関してはご家庭で使われていたものを持ってきていただくようお願いしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	可能な限りできることは行っていただくように見守りを行っている。 その際に事故の起こらないように配慮している。		